

四季の風だより

節分号 平成25年2月5日

田中せいこ社会保険労務士事務所

鬼は～そと！福は～うち！

早いもので、節分が終わり立春を迎え、春はすぐそこまで来ています。とは言え、まだまだ寒さは厳しく、インフルエンザも大流行しているようですね。皆さん、いかがお過ごしでしょうか？

そういえば今月は、バレンタインデーもあるんですよ。今年は手作りチョコでも作ろうかな、なんて言ってみただけで、今年も「ボンとらや」さんで買うつもりです。



初ファッションモデル



先日、ご近所のギャラリー「花棕櫚」さんで、酒井真知子さん（洋服）田中明子さん（ニット）渡辺奈保美さん（アクセサリー）の、デザイナー三人のファッションショーが行われました。私はギャラリーのオーナーの友人ということで、モデルに駆り出されました。ついに子供の頃から憧れていた、ファッションモデルになれたのです。

私を含め、モデルは10人。30代から70代までの美女（あるいは魔女）が、ユーミンの曲に合わせて、踊ったりポーズをきめたりで、観客を魅了したのでした。

モデルの女性は皆さん主婦で、仕事や趣味も様々ですが、共通していたのは「輝く笑顔」でした。恥じらいをかなぐり捨てて、モデルになりきって踊る姿は、中高年でありながら、まるで少女のようでした。お腹周りだって、しっかり脂がのっているのですが、それさえ愛らしく感じてしまう程、その笑顔には、パワーがありました。

今月号のお話し

○初ファッションモデル

○着物は大人のコスプレ

○雪山散歩道

私はこの経験で、つくづく女性の魅力って何だろうと考えさせられました。

その人の生き様が、オーラとなって輝いた時、美しいと感じるものなのでしょう。若さやスタイルの良さは、二の次なのでしょう。だからもう、無理してダイエットしなくても、いいんだよって、自分に言い訳した私です。





着物は大人のコスプレ



人は誰でも、多かれ少なかれ変身願望があると思うのですが、大人になると、今更セーラームーン（かなり古い…）の格好もできませんよね。私は和服を着た時に、少し変身したようなウキウキ気分になることができます。先日、豊川市で桂文珍さんの落語がありましたので、これぞ着物を着るチャンスと、縦縞の紬で出かけました。

当たり前のことですが、和服と洋服とでは、着心地が全く異なります。和服だと、冷たい風で襟足がスースーして、ボケた頭もシャキッとしますし、帯が腰痛コルセットの役目をして、曲がった腰が伸びます。

いつもはガニマタで歩いているのですが、裾がすぼまっているので自然とウチマタになってしまいます。いつもの自分より、イイ女になったような錯覚をおこし、とても気分が良くなるのです。

それともう一つ大きな利点は、着物は、太ももかと思うほど太い二の腕や、丸太のような胴周りを、すっぽりと包んで隠してくれるんです。絹の柔らかな布に包まれる感覚は、子供の頃、湯上りにバスタオルで包まれた時のように、寒い夜に毛布に包まれている時のように、優しく暖かい感覚です。帯は苦しくないかと、よく聞かれますが、洋服よりも楽なのです。ゆったり着ても、着物は着崩れしないものなのです。

着物は、大人のコスプレです。男性の着物姿も素敵ですよ。皆さん、もっともっと、着物でお出かけしませんか？



雪山散歩道



私は、秋田県の森吉山の麓で生まれたせいか、歳を取るにしたがって、どんどん山が好きになってきました。山にいと心が静かになって、音や匂いの感覚が鋭くなっていくように感じます。一人で山にいる時は、特にそう感じます。

私の名前は勢子（せいこ）と書きますが、私の生まれた土地で勢子（せご）というのは、狩猟の時に獣を追い出したり、包囲したりする役目のことを言います。猟犬のような役目です。どうして父がそんな名前を私に付けたのかわかりませんが、名前のせいで、私の前生は狩猟を生業にして、山で暮らしていたのだらうと、思うようになりました。

前生のDNAのせいか、今の季節、雪山に行きたい気持ちが高まります。スキーや

スノボではなく、雪山を歩きたくなるのです。私は、スノーシューを履いて長野県と岐阜県の県境の富士見台高原を歩くことにしました。

早速、出かけてみたものの、あいにく空は雪雲に覆われていて、視界が悪く、天気良ければ見えるはずの南アルプスの山並みも全く見えません。でも一面の白い雪は美しく、その雪の上に不思議な足跡が残っています。ウサギの足跡です。

ウサギは前進する時、前足よりも後足の方が前にくるのです。



この絵のように、先に前足を着くのですが、後足が前足を超えて行くので、足跡だけ見ると、前足の跡が尻尾の跡のようになります。こんなウサギの足跡が、雪山の登山道に沢山ありました。

前生の私だったら、足跡を追いかけて、腰まで雪に埋まりながらラッセルして、ウサギを見つけだしていたことでしょう。



では、ここで一句です。冬の季語の「山眠る」で、詠んでみました。

兎追う 眠りし山の中におり

最後までお読み頂き、ありがとうございました。